

令和7年度 指定管理施設の管理運営に関する月次評価について

施設所管課名：福祉こども部子育て支援課

1 施設概要

施設名称	総合医療センター病児・病後児保育センター
指定管理者名	公益社団法人地域医療振興協会
指定期間	令和4年4月1日～令和8年3月31日（5年間）

2 月次評価

評価月	評価
4月	<p>1. 5月2日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。業務日誌や保育記録、午睡チェック表、医師連絡票、利用料減免申請書の帳簿も鍵のついた棚に保管されていること等から、適切に管理されていることを確認した。</p> <p>病院移転に伴い、パンフレットを新たに作成した。今後周知のため、愛らんどなど周知を行っていくとの報告あり。また、駐車場や入口を誤つて、総合医療センターの駐車場や正面入り口を利用してしまった方が多いため、パンフレットにも写真付きで分かり易く掲載したとの報告あり。</p> <p>2. 4月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者 病児 延べ4人 病後児 延べ4人・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ0人 病後児 延べ0人 <p>4月の利用</p> <p>利用者は延べ8人で、前月までと比べて大きく減少（前年同月と比べ延べ利用者数は-14人）。インフルエンザの利用は0人で、多くは気管支炎や上気道炎が中心。久里浜地区は児童数の多い地域だが、センターの久里浜への移転による大きな影響はみられない。引き続き、利用者の増加について注視していきたい。</p>
5月	<p>1. 5月26日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。先月指導した「5歳以上の病児は5分ごとの睡眠チェック」に関しても、センター内で共有および実施されていた。食事介助は複数体制で行い、職員が病児から目を離さないよう配慮しており、薬の内服もシリンジを使うなど工夫していた。食後は誤嚥や窒息予防のため、30分間横にならないよう指導し、必要に</p>

	<p>応じて抱っこ対応を行うよう指導した。また、医師との協議の結果、申込み時のコロナ検査は不要となり、パンフレットも速やかに修正・配架したと報告あり。ただし今後もできるだけ検査実施の協力は依頼していく予定のこと。</p> <p>2. 5月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ13人 病後児 延べ5人 ・キャンセル待ち中利用できなかつた数 病児 延べ0人 病後児 延べ0人 <p>5月の利用</p> <p>利用者は延べ18人で、前月より増加したが前年同月と比べると5人程減となっている。今月は、同じ利用者の方が複数日につわたって継続して利用されるケースが多く見られた。5月は例年利用者が少ない時期だが、主な利用理由は扁桃炎、上気道炎、胃腸炎などが多くみられた。センターの移転後も問い合わせ件数に大きな変化はみられない。今後も利用状況を見ながら、利用者増に向けた周知方法についてセンターと検討していく。</p>
6月	<p>1. 6月24日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。6月中旬には利用希望者が多く、全ての部屋を使い病児（最大3名）を受け入れることがあり、その際は総合医療センターの看護部へ応援を依頼し、適切に対応できていることを確認した。業務日誌や保育記録なども適切に管理されている。また、予約システム「あずかるこちゃん」において、予約開始時刻（通常は前日の7時30分）よりも前（午前0時）から予約が入ってしまう事象が発生したため、速やかに運営会社へ報告を行い、修正をおこなったとの報告あり。速やかに対応をとっていることを確認した。</p> <p>なお、利用者がいない日には引き続きおもちゃの消毒や室内清掃、院内研修を実施するなど、衛生管理・職員研修にもしっかりと取り組んでいることを確認した。</p> <p>2. 6月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ19人 病後児 延べ1人 ・キャンセル待ち中利用できなかつた数 病児 延べ1人 病後児 延べ0人 <p>6月の利用</p> <p>6月の利用者は延べ20人で前月までと比べて多少増加している。例年6月はRSウイルスの診断がついた利用者が増え始める時期だが、今年はまだRSウイルスによる利用は見られず、主な利用理由は上気道炎や咽頭</p>

	<p>炎、胃腸炎となっている。</p> <p>市民からの問い合わせ件数も 10 件ほどで、これまでと大きな変化はみられない。</p> <p>3 月の久里浜への移転後当初は総合医療センターと病児・病後児保育センターの入口や駐車場を間違える方が多かったが、新規利用者の多くが市のホームページで事前に確認していることから、最近は間違える方はいなくなったとの報告あり。</p>
7 月	<p>1. 7 月 24 日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。安全面では、室内の鍵のぶが子どもの手の届く位置にあるため、病児・病後児が触れられないよう全室にカバーを設置していることを確認した。センター入口では職員用 IC カードでロック解除できる仕組みとなっているが、病院職員全員が IC カードを所持していることから、さらに番号式の鍵を追加で設置し、二重の管理体制をとっていることを確認した。</p> <p>また、感染予防の観点から定期的に手洗いチェッカーを用いたダブルチェックを実施しており、衛生管理が徹底されていることを確認した。</p> <p>以上のように、協定書に基づき、安全対策や衛生管理等の観点からも適切に運営が行われていることを確認した。</p> <p>2. 7 月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ 25 人 病後児 延べ 5 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 2 人 病後児 延べ 0 人 <p>7 月の利用</p> <p>7 月の延べ利用者数は 30 人であり、4 月（8 人）、5 月（18 人）、6 月（20 人）と比べて、引き続き増加傾向にあった。主な利用理由は、ヘルパンギーナや RS ウィルス感染症、上気道炎、咽頭炎などであり、特に夏場に多い RS ウィルスによる利用も増えてきている。</p> <p>7 月は延べ利用者数がもっとも多かったが、実際の利用者数は 11 人であり、同じ利用者が複数日にわたって継続利用しているケースが多く見られた。</p> <p>一方、市民からの問い合わせはほとんどなく、新規利用者もみられない状況であった。今後も引き続き、利用状況の推移を注視していく。</p>
8 月	<p>1. 8 月 25 日に現地確認を行い、指定管理者から運営状況を聴取し、協定書に基づいた適切な運営が行われていることを確認した。当月は感染認定看護師（感染制御室）による抜き打ちのチェック指導が実施され、感染対策の徹底について確認と指導があったとのこと。具体的には、トイ</p>

	<p>レでは水が飛び散るため掃除用品などを回りには置かず、使用時はリネン室から取り出す運用へと改善すること、キッチンのガラス製食器棚の危険性を指摘され他の棚を設置すること、洗濯室では掃除用品などを床に置かず棚を使用すること、また下駄箱の上や水回り付近にはマスク等の衛生用品を置かず、専用ワゴンなどを使用し管理することなどが指摘された。これらの指摘事項については速やかに対応し、衛生管理のさらなる徹底を図るとの報告あり。以上から、安全・衛生面の指摘箇所については速やかに改善対応を進めており、協定書に基づき適切な管理運営が行われていることを確認した。</p> <p>2. 8月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ 11人 病後児 延べ 3人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 0人 病後児 延べ 0人 <p>8月の利用</p> <p>8月の延べ利用者数は14人で、実際の利用者は9人だった。例年この時期は夏休みやお盆が重なるため、利用者数が少ない傾向にある。</p> <p>また、新規利用者や問い合わせもほとんどなかった。</p> <p>昨年の8月は病児が延べ11人、病後児が延べ5人利用しており、今年もほぼ同様の利用状況となっている。なお、RSウイルスやプール熱などでの利用はなく、主な診断名は咽頭炎、上気道炎、感冒など、年間を通じて多い疾患での利用のみだった。今後も引き続き利用状況の推移を注視していく。</p>
9月	<p>1. 9月26日に現地確認を行い、指定管理者の運営状況について確認した。先月、院内の感染認定看護師による抜き打ちチェックで指摘された「下駄箱や水回り付近に衛生用品を置かず専用ワゴンを利用する」等の感染対策については、病児室・病後児室それぞれに専用ワゴンを設置するなど、速やかに適切な対応がなされていることを確認した。また、新規採用の保育士との顔合わせを行い、引継ぎ状況も確認した。業務日誌・保育記録・利用料減免申請書帳簿についても鍵付き棚での保管状況を確認し、適切に管理されていることを確認した。大きなトラブルやクレームもなく、円滑に運営されている。</p> <p>2. 9月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ 23人 病後児 延べ 9人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 1人 病後児 延べ 0人

	<p>9月の利用</p> <p>延べ利用者数は32人で、4月から9月の中で最も多い結果となった。主な疾患は上気道炎、気管支炎、咽頭炎、胃腸炎で、おたふく風邪による利用も見られた。問い合わせは少なかったものの、新規利用者がやや増加した。なお、令和7年度のこれまでの推移をみると、毎月病児の利用が多い状況が続いている。</p>
10月	<p>1. 10月27日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。以前、院内の感染認定看護師による抜き打ちチェックにおいて指摘されていた、「ガラス製食器棚をおもちゃ入れとして使用していたことによる割れた場合の危険性」や「洗濯室で掃除用品などを床に直置きしていたこと」などの感染対策については、現在はおもちゃ専用の棚を新たに購入して鍵管理を行っており、洗濯室にも大きな棚を設置し、タオルやオムツ、掃除用品等も整理整頓されていることを確認した。対応後は、保育室・洗濯室ともにすっきりと整理されていた。また、利用者のいない日には、清掃のほか、職員が手作りのおもちゃや部屋の飾り付けを作成し、室内が季節感のある明るい雰囲気となっていた。病院移転後、やや殺風景だった室内も、温かみのある空間となり、利用児がリラックスできる工夫が見られた。これらのことから、指摘事項については速やかに改善が図られ、安全・衛生面および環境面の配慮も充実していることを確認した。</p> <p>2. 10月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ18人 病後児 延べ7人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ1人 病後児 延べ0人 <p>10月の利用</p> <p>10月の延べ利用者数は25人で、4月以降と比較するとやや少なく推移しており、問い合わせや新規利用者も多少見られた。減免利用者は延べ9人で、前月（9月：12人）からは減少している。主な利用理由は胃腸炎や上気道炎、気管支炎などで、水疱瘡やRSウイルスによる利用者もみられた。世間ではインフルエンザが流行し学級閉鎖も報道されているが、10月時点ではインフルエンザによる利用者はいなかった。</p>
11月	<p>1. 11月25日に現地調査を実施し、指定管理者から運営状況について聴取した。感染症対策については、インフルエンザが流行していることから、11月中にスタッフ全員がインフルエンザワクチンの予防接種を済ませており、引き続き感染予防対策が徹底されていることを確認した。</p>

	<p>また、11月に発生したヒヤリハット事案（病児が洗面台下部排水管部分に足を挟んでしまった件）については、事案発生後直ちに、洗面台下部排水管部分が児童の手足に触れられないよう囲い（カバー）を設置し、さらに通常設置しているベビーサークルも併用して、事故防止策を強化していた。今後は水道を使用する際にベビーサークルを外しても、カバーによって排水管部分に触れられないよう全室で対策を実施済みであることを確認した。</p> <p>以上のことから、協定書に基づき、感染症対策や安全管理の観点からも適切に運営が行われていることを確認した。</p> <p>2. 11月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ30人 病後児 延べ1人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ6人 病後児 延べ0人 <p>11月の利用</p> <p>11月の延べ利用者数は、これまでインフルエンザによる利用は見られなかったが、今月に入りインフルエンザでの利用が増加。このほか、気管支炎、急性咽頭炎、上気道炎、マイコプラズマ気管支炎、流行性結膜炎などの疾患による利用がみられた。</p> <p>また、延べキャンセル人数は25人となり、10月までの平均（約11人／月）と比べて大幅に増加している。（参考：4月5人、5月12人、6月10人、7月9人、8月12人、9月13人、10月15人）。キャンセル理由については、「症状が回復した」「他に家族や知人がみてくれるようになった」などが主な理由となっている。</p> <p>今後もインフルエンザ等の感染症の動向や利用状況の変化について、引き続き注視していく。</p>
12月	<p>1. 12月22日に現地確認を行い、指定管理者から運営状況の聴取を行うとともに、協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。フロア別の小規模消防訓練を実施し、防火区画に関する説明、防火戸の閉め方、排煙設備（機器）の稼働方法、病児・病後児保育センターがある2階フロアの消防用設備の位置確認、放送設備の特徴、SP制御弁室（スプリンクラー）の特徴、消火器および屋内消火栓を用いた模擬訓練、避難経路図の確認等を行っていた。また、訓練に参加できなかったスタッフについては、内容を回覧により共有していることを確認した。これらから、防災・消防に関する職員の理解向上および体制整備に取り組んでいることを確認した。あわせて、市民からの大きなクレームや要望、運営上特段困った事案は発生していないとの報告を受けた。</p>

	<p>2. 12月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ37人 病後児 延べ4人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ5人 病後児 延べ1人 <p>12月の利用</p> <p>12月の延べ利用者数は41人で、4月以降と比較して最も多い月となった。疾患別では、インフルエンザ及び上気道炎による利用が圧倒的に多く、このほか胃腸炎や気管支炎による利用もわずかに見られた。また、インフルエンザ罹患により利用していた児童のうち、施設利用後症状が悪化し後日肺炎で入院となったケースも報告されている。4月以降の実利用人数および延べ利用人数は、徐々に増加傾向にありインフルエンザをはじめとした感染症の流行に伴い、12月も利用が高水準で推移している。</p>
1月	<p>1. 1月26日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。利用者が少ない月ではあったが、業務日誌・保育記録等から職員間の情報共有が適切に行われていることを確認した。利用者がいない日も清掃・消毒のほか、玩具や壁面装飾の作成等を実施しており、いつでも受入れ可能な体制が維持されていた。</p> <p>2. 1月の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者 病児 延べ16人 病後児 延べ5人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ0人 病後児 延べ0人 <p>1月の利用</p> <p>1月の延べ利用者数は21人となり、12月（延べ41人：今年度最多）から大きく減少した。例年、1月は利用者が少ない傾向にあるとのこと。疾患別では、12月まで多かったインフルエンザAに代わりインフルエンザBの利用が見られ、あわせて上気道炎、気管支炎、胃腸炎も同程度の利用状況であった。</p>
2月	
3月	